

07年 マイワシ

単位：数量，1,000トン、価格，円/kg

年	数								量				
	漁獲	産地	輸 入		輸 出		東京		在 庫	加 工 品 生産			消費支出
			ミール	生・冷	生・冷	缶	生	煮干		缶	身入	塩蔵	
18	52	39.2	408	20.1	2.0	0.17	4.2	2.6	20.4	1.0	29.7	25.2	865
19	79	41.7	347	16.8	3.9	0.12	4.9	2.4	21.6				947
%	152	106	85	83	198	73	115	91.2	106	0	0	0	109

年	価 格								消費支出	海域	18	19	対比(%)
	産地	輸 入		輸 出		東京		生(円)					
		ミール	生・冷	生・冷	缶	生	煮干						
18	115	113	92	93	549	457	524	739	道東	0	0		
19	101	125	84	103	609	453	609	739	三陸	6	7	120	
%	87.8	111	91	111	111	99	116	100	常磐	29	29	100	
									九州	2	1	39	
									山陰	0	3		
									その他	2	2	118	

MAX S63年、4488千トン

漁獲量と資源

19年のマイワシの漁獲量は、少ないながらも7.9万トンと前年の5.2万トンをかなり上回ったものと推定される。

道東漁場では、引続きマイワシの漁獲は皆無であったがカタクチイワシが約52トンで前年（3.4万トン）を大幅に下回った。北部太平洋海域のマイワシの漁獲は三陸・常磐ともほぼ前年並みの漁獲であった。また、近年漁獲の急減をみている山陰では、混獲ながらも前年を大きく上回る漁獲であった。

太平洋系群のマイワシの資源量は1981年に1,500万トンを超え、1988年まで1,400万～1,900万トンと高水準で安定していたが、1989年から急減し、1994年には88万トンとなった。1995～1999年までは70万トンを超えて低水準ながら比較的安定していたが、2000年から再び減少傾向となり、2003年以降12万～13万トンで推移したと推定された。2007年当初は、2007年の加入尾数を2005年と同程度とする仮定のもとで約13万トンと推定されている。

対馬暖流系群の資源量は1989年以降、急激に減少し続けている。1989～1994年の資源量は100万トン以上であると計算されたが、1995年以降は100万トンを下回り、1997年以降は10万トン以下、2001～2004年にはBban（資源量5千トン）以下であったと判断された。2006年の資源量は、Bbanよりを上回り86百トンと推定された。産卵調査によると、2001年よりは卵豊度は高いものの、依然として低水準のままである。資源水準は低位、動向は横ばいと判断されている。

産地水揚量と価格

19年の水揚量は、4.2万トンで前年（3.9万トン）をやや上回った。したがって価格は、101円で前年（115円）を引続き下回った。

北部太平洋海域での漁は、常磐主体に昨年並みであった。

なお、本年のミール相場も、年明けの18万円/トンの高値から始まり、10月末まで続いた。それ以降17万円まで下げ、11月下旬には16万円となり、若干下げたものの、堅調相場の1年となった。

三 陸

19年の三陸での漁況は、初漁期（北上期）の4、5月は昨年同様皆無、夏場にかけて昨年をやや上回ったが、水準としては今年も低かった。

三陸(単位:1000トン)			常磐(単位:1000トン)		山陰(単位:1000トン)		日本海北(単位:1000トン)	
月	18年	19年	18年	19年	18年	19年	18年	19年
1	0.0	0.4	0.1	9.0	0.0	0.1	0.0	0.0
2	0.0	0.0	0.1	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0
3	0.0	0.0	0.4	2.1	0.0	0.2	0.0	0.0
4	0.0	0.0	0.2	0.6	0.0	0.0	0.0	0.0
5	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0
6	0.0	0.1	6.8	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0
7	2.3	3.4	12.8	7.5	0.0	0.9	0.0	0.0
8	1.2	1.7	6.0	1.0	0.0	0.1	0.0	0.0
9	0.4	0.4	0.1	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0
10	0.9	0.2	0.4	0.4	0.0	1.7	0.0	0.0
11	0.7	0.4	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
12	0.0	0.0	0.8	0.2	0.0	0.0	0.0	0.0
計	5.6	6.6	28.6	28.5	0.0	3.0	0.0	0.1
MAX S61年1097千トン			MAX S58年822千トン		MAX H元年713千トン		MAX	

秋から冬場の南下期も昨年をやや下回り低水準であった。

魚体は、周年を通じて2006年級群主体に漁獲された。

常 磐

19年の常磐での漁況は、初漁期は前年よりややまとまった漁獲がみられ、前年を上回ったが、北上期には前年をやや下回った。また、後半の南下期は前年以上に低調に推移し、水揚げも前年をやや下回った。

魚体は、周年を通じて2006年級群主体に漁獲された。

山 陰

19年の山陰での漁況は、11月にややまとまった他は、全漁期を通じて混獲による漁獲が僅かにみられたのみであった。

また本年も上半期2～5月と下半期の10月主体に、カタクチイワシがまとまって漁獲され、水揚げも前年をかなり上回った。

在 庫 量

本年の平均在庫量は、特に上半期の潤沢さを受けてかなり増加したことで2.2万トンとなり前年(2.0万トン)を上回った。これは、特に低水準な資源水準の中でも、国内生産が昨年を若干上回ったことの結果である。越年在庫は1.6万トンで前年(2.3万トン)を下回った。

輸 出 入

本年の輸入ミールは、34.7万トンで前年(40.8万トン)を下回った。

輸入ミールは21世紀に入って再度増加傾向を見せて、この2002, 2001年間は40万トン台に輸入量も回復しつつあり、2006年も2002年以来の40万トン突破となったが、本年は市況が高騰したままは推移したため再度30万トン台半ばの水準に落ちた。

また、平成7年頃から餌料不足により外国(米国、メキシコ)からの原魚輸入もみられていたが、

現在も、依然この両国が主体で生・冷マイワシは（夫々11,267トン、3,086トン）であり、缶詰主体に鮮魚向け、一部は餌料にも国産の代用品として利用・販売されている。また、その他少ないながらもカナダ、オランダ、中国等からも輸入されている。また国内漁獲が若干の回復を受けて本年も1.7万トンで前年（2万トン）を下回った。

輸出は缶詰と冷凍に分かれるが、缶詰輸出は、サバ缶同様減少の一途を辿っていたが、本年は0.1千トンで前年（0.2千トン）をかなり下回り、再度減少に転じた。

また、冷凍輸出は国内漁獲が前年をやや上回ったこともあり3.9千トンと前年（2千トン）を大幅に上回った。

価格は、缶詰が609円で前年（549円）を上回り、冷凍は103円で前年（93円）を上回った。

消費地入荷量と価格

本年の東京の入荷量も、4.9千トンで前年（4.2千トン）を上回った。

マイワシは近年の資源量の低水準の中で、消費地でのマイワシの入荷も少ないが、本年は昨年を上回った。

価格は、453円で前年（457円）を若干下回ったが、入荷の増加の割には大きな下げには至らず、周年堅調になっている。なお、家計消費でみると数量の伸びが目立ち、購入金額は前年並みであった。

煮干しは、2.4千トンで前年（2.6千トン）をやや下回り引続き減少した。